

日本各地から集結した16人の中高大学生、タイで国際協力の意義を学ぶ ～尾木ママと行くJICA国際協力中高生エッセイコンテスト海外研修～

「信頼で世界をつなぐ」をビジョンに掲げ、日本の政府開発援助（ODA）実施機関として開発途上国への国際協力を行っている独立行政法人国際協力機構（以下：JICA）は、タイで「JICA国際協力中・高校生エッセイコンテスト」（2019～2022年度）の最優秀賞・優秀賞受賞者を対象にした海外研修を実施しました。今回の研修には尾木ママこと尾木直樹氏（同コンテスト中学生の部最終審査員長）が同行し、日本各地方から集まった16人の若者（中学生3名、高校生7名、大学生6名）と共に、JICA事業視察や現地の学校訪問を通じて学びを深めました。若者の内向き志向が指摘される現代、若い世代が現地で様々な体験を通じて多くのことを学びました。

JICA事業地を訪問。タイ人から「障害」とは何かを学ぶ。

JICA無償資金協力・技術協力の事業 「アジア太平洋障害者センター（APCD）」を訪問。APCDは、レストランやホテルなどでの就労を目指すための職業訓練所であり、ベーカリー、レストランも併設。APCDの方々は何かしらの障害を抱えていましたが、当初参加者はそれに気が付かず、あとで知って一様に驚いていました。それは、そこにいるタイ人がみな笑顔で、生き生きと仕事をしているからであるからだと気づきました。また、JICA海外協力隊が活動する特別教育支援センターも訪問。隊員から障害者教育に関わる国の状況や隊員の活動について学びました。



職業訓練中のスタッフによる配膳



ベーカリーの職業訓練視察



障害者児童への授業視察

現地学校訪問・交流から相互理解とは何かを学ぶ

バンコクにある公立中高一貫校でタイの高校生と交流をしました。お互いの出し物をしたり、タイのお菓子（カノムサイサイ）をタイ人生徒と二人ペアになって作りました。翌日は同じ生徒たちとクレット島を散策。タイ人生徒ともすっかりうちとけ、タイ語を教えてもらったり、日本語を勉強しているタイ人学生が一生懸命日本語で話したりと、大いに盛り上がっていました。初日にコミュニケーションの取り方を心配していた参加者も、涙を流して大笑いをしている姿に、言葉を超えたコミュニケーション、伝えたい気持ちの実践がありました。



タイ人生徒とのお菓子作り



タイ人生徒とペアになって交流



タイ人生徒たちと盛り上がり乾杯！

尾木ママや現地で国際協力に取り組むJICA関係者と語り合う。

タイでは、尾木ママや現地で国際協力に取り組むJICA関係者と交流の場を多く設け、普段の学校生活では関わることのできない人たちとの意見交換を通じて学びを深めました。

尾木ママと今後の進路選択について話した生徒は、尾木ママからもらった「チャンスは掴むもの」という言葉から、自分の行動を通してチャンスを掴み成長したい語っていました。

また、タイに赴任中の海外協力隊の方々には「協力隊をめざしたきっかけ」等の疑問を投げかけ、千差万別な回答に参加者全員がそれぞれ傾聴していました。自分達の目標なども（まだ目標が定まらない等も）素直に語り、時間がいくらあっても足りないひとときとなりました。

また、JICAタイ事務所のタイ人職員とも交流し、日本語が堪能なタイ人へなぜ日本語を学んだかや仕事の内容等について質問を投げかけたり、参加者が受賞したエッセイの内容を伝えタイ人職員からコメントをもらったりしました。



尾木ママと語り合う生徒たち



JICAで働くタイ人職員との交流



海外協力隊と尾木ママと皆で

JICAタイ事務所での最終報告会で世界と自分に向き合う。

研修の最終日には、JICAタイ事務所に集まり、尾木ママ、JICAタイ事務所所長等関係者と共に報告会を実施し、参加者一人一人から研修での学びや今後について報告しました。参加者の今後の目標に国際協力の視点が加わるという変化が見られました。

◆参加者の声（一部）◆

- ・日本の技術がタイ等の国の発展に寄与していることを見て学んだ。これからも国際協力について学び、発信していきたい。
- ・今回、タイの交流で「つながる」をリアルに感じた。言葉が通じなくても、伝えたい思いがあれば繋がれると思った。
- ・受験生（高校三年生）で研修に行くのを躊躇っていた。研修に参加して心が動かされる瞬間が何度もあった。参加していなかったら一生後悔していたと思う。出会えた縁に感謝し、途上国でSTEM教育を促進するという夢につなげたい。



◆尾木ママより◆

- ・今回の視察で、現地から学ぶ姿勢、国際協力は開発途上国を支援するという上から目線ではなく、一緒に協働し高め合い（インタラクティブ）、共栄していくことだと学んだ。それは日本の真価でもある。
- ・人間観が鍛えられた研修になったと思う。生徒たちの感想から視野が広がっていることが分かる。みなさん一皮も二皮もむけて成長していくと思う。僕もみなさんと一緒にまだまだ成長していきたい。

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテストとは？

中学生・高校生が開発途上国の現状や日本との関係について理解を深め、国際社会の中での日本、そして一人ひとりがどのように行動すべきか考えることを目的に、本コンテストを毎年開催しています。最優秀賞・優秀賞には海外研修の副賞、その他個人賞にはフェアトレード商品、応募者全員に参加賞をお送りしています。

【今年度の募集概要】

応募期間：2023年6月7日（水）～9月13日（水）※必着

テーマ：「地球に生きる私たち ～未来へつなげるために～」

詳しくはこちら：

<https://www.jica.go.jp/cooperation/experience/essay/index.html>

※今年からウェブでの応募も可能となりました！



本件に関する取材

- JICA広報担当者からのご説明
- 関連画像素材の提供
- 研修参加生徒へのインタビュー
 <取材対応可の生徒一覧>

受賞者氏名	受賞年度	賞	学校(都道府県)・学年(※受賞当時)		現在
廣瀬 絢菜	2019年度	文部科学大臣賞	矢板市立矢板中学校(栃木県)	中3	大1
橋本 莉紗		文部科学大臣賞	学校法人市川学園市川高等学校(千葉県)	高2	大3
目 淑乃	2020年度	文部科学大臣賞	明治学園高等学校(福岡県)	高2	大2
長谷川 デクラン	2021年度	文部科学大臣賞	United World College of South East Asia(East)(シンガポール)	中3	高2
土井 咲子	2022年度	JICA理事長賞	東大和市立第二中学校(東京都)	中3	高1
棚田 武蔵		外務大臣賞	射水市立射北中学校(富山県)	中2	中3
三浦 かな		文部科学大臣賞	下川町立下川中学校(北海道)	中2	中3
山藤 希葉		優秀賞	新渡戸文化中学校(東京都)	中2	中3
ンバ 真陽佳		JICA理事長賞	同志社国際高等学校(京都府)	高2	高3
箱田 晴大		外務大臣賞	大阪府立箕面高等学校(大阪府)	高2	高3
吉田 結		文部科学大臣賞	星野高等学校(埼玉県)	高2	高3
横山 麗乃		優秀賞	島根県立浜田高等学校(島根県)	高2	高3
田中 琉惺		優秀賞	福岡県立修猷館高等学校(福岡県)	高2	高3

<本件に関するお問い合わせ先>

JICA広報部地球ひろば推進課 岩下奈未

TEL 03-3269-9020

E-mail : Iwashita.Nami@jica.go.jp